



その結果、明治17年に現宇都宮線の分岐場所が大宮に決定し、明治18年大宮駅が開業しました。現宇都宮線の営業開始もこのときからです。

大宮に日本鉄道株式会社によって鉄道がひかれたのは、明治16年のことです。このとき浦和駅と上尾駅ができましたが、大宮にはまだ駅がありませんでした。江戸時代9つの脇本陣がありましたが、立地が悪く、宿泊場所がなくなり、大宮宿での宿泊者が大幅に減少して町が廃れつづきました。そこで立ち上がった白井助七・岩井右衛門八が、大野伝左衛門・矢部忠右衛門らの元有力者層は停車場用地の無償提供等を申し出て、県知事や日本鉄道株式会社に請願や陳情を繰り返しました。

（私も、誤解していました。。。）  
「大宮が大きく栄えるようになって欲しい」と願いを込めて名付けられた橋です。鐵道を挟んで大宮区の東西を結ぶ道路橋で、大宮駅のプラットフォームやJR東日本大宮総合車両センターが良く見えます。新幹線やニューシャトルもよく見える、「鐵道ファンならずともわくわくする場所です。」と書かれています。

（私も、誤解していました。。。）  
「だいえいばし」ではありません。

平成18年に市民が選定した「大宮二十景」の第5弾は「大栄橋」です。

### 『大栄橋と鉄道のある風景』

参考資料  
『写真でみる大宮の昔と今』  
大宮市立博物館／編 大宮市教育委員会／1990  
『大宮のむかしといま』  
大宮市／1980



↑(橋の上からは線路が一望できます。)



## みんながへった

この作品はハワイ島にある小さな村で映写技師としてアルバイトをする主人公・怜雄(れお)の、穏やかな暮らしを丁寧に描いた作品である。日系アメリカ人のコミュニティの中で暮らす人々の人間模様がつづられており、なかでも印象的なのが何度も登場する食事シーンだ。

タロイモの葉っぱに包まれた食材たち、立ちのぼるココナッツミルクの湯気。日中焚火の下に置かれていた石でつくる鍋のぐつぐつと煮える音。

一体どんな料理が出来上がったのか明確にわからなくても、なぜか美味しい香りが漂ってくる。どこを読んでもよだれが出そうな魅力的な描写で、読了後にはおなかが空くこと間違いなしである。外国のことなのになぜか分かる、体験していないのに懐かしさを感じる。そんな気持ちにさせてくれる、温かかくて優しいお話をぜひ読んでいただきたい。

ホノカアボーイ  
吉田怜雄/著  
幻冬舎文庫/2009

## 大西民子の一首

雪の日は まろびて遊び 雪娘なりし 遠き昔よ  
『風水』より

岩手県で生まれ育った民子は、幼い頃、一面の銀世界の中、竹スキーや下駄スキーをして、遊んだ思い出があります。この歌からは、ころび回る自分のことを「雪娘」と呼ぶほほえしさが、伝わってきます。

参考資料  
『墨汁一滴』 正岡子規／著 岩波書店／1927  
『子規全集』 正岡子規／著 正岡忠三郎／編 講談社／1997  
『漱石全集』 第25巻 夏目金之助／著 岩波書店／1996  
埼玉県 大宮公園  
[www.pref.saitama.lg.jp/omiya-park/oshirase/h30/history-omiya.html](http://www.pref.saitama.lg.jp/omiya-park/oshirase/h30/history-omiya.html)

大宮  
20景

## 大栄橋と 鉄道のある風景



Vol.005  
2020年12月14日発行  
OMIYA LIBRARY

その後、明治27年に大宮に鉄道工場が開設しました。なお、大宮図書館隣の山丸公園にはSL C1229号とともに白井助七碑があり、旧大宮市名誉市民になっています。

鉄道ができると大宮も東西に二分され、その間を結ぶ踏切などの建設が必要となります。昭和26年には川越新道(現県道2号線・旧国道16号)の大踏切に大跨線橋設置についての請願書が提出されました。昭和31年に工事が着工し、昭和34年に竣工し、昭和36年に全面開通しました。

現在も交通の要衝となっている大栄橋を、様々な角度と時間から撮影しました。

正岡子規と大宮公園

現在の大宮公園は、1885(明治18)年に氷川公園として開園しました。松や雑木林に覆われた風情ある景色が広がっています。季節ごとに様々な風流を鑑賞できるこの公園には多くの文人たちが訪れていました。今回紹介する、正岡子規もそのひとりです。

正岡子規は1891(明治24)年の9月頃、東京帝国大学の試験勉強と自身の保養のために十日ほど大宮に滞在し、万松樓という高級料亭でもある宿屋に泊まっていました。万松樓は、現在の大宮公園の小動物園や児童遊園地がある一帯にありました。子規は、大宮での「愉快」を1人で楽しむのは惜しいと思い友人である夏目漱石を呼びます。突然の子規の呼びつけに大宮を訪れた漱石は、「綺麗な宿の奥も進み、精神的にはとてもリフレッシュできたようです。座敷で子規は大将みたいに陣取つて威張つて、鶴の焼いたものを一緒に食べた」と書き残しています。

子規にとって大宮での滞在は、大いに楽しめたのか俳句の制作も進み、精神的にはとてもリフレッシュできたようですが、ちなみに、本来の目的のひとつであつた試験勉強は一切できていません。この時の試験は、ごまかして済んだとか……。

おらず、この時の試験は、ごまかして済んだとか……。



# ご近所さん



大宮駅から一の宮通りを抜けると冰川神社の二の鳥居が見えます。今回はそのままにある冰川参道ギャラリーで現在個展を開催している彫刻家・木田詩子さんにおはなしを伺いました。

## 素敵な立地の画廊ですね。

冰川参道の歴史を感じることが出来ますね。なかがすいたら近くにあるおせんべい屋さんを覗いたりお蕎麦を食べに行ったり。カフェも多いので来るたびに散策しています。

## 展示の見どころを教えてください。

立体作品なので空間の中でどれだけ存在感を出せるかというところを大事にしています。ふらつと立ち寄れる場所なので写真には写らない空気感を生で感じてもらいたいです。



冰川参道ギャラリー  
営業時間：10:00~17:00  
休館：日曜・祝日・年末年始（12/26~1/4）  
〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町1-20-1大宮中央ビル1階  
お問い合わせ：048-649-8921 JGS（株）ピア21デザインワークス 担当：服部孝一

## 「詩子さんの作品は雑誌『現代短歌』の表紙を飾られていたとか。

はい。名前に「詩」の字が入っていますし、音楽活動をしていたことがあり作詞も行つております。短歌にも近いものを感じ、お話を頂いた時はとてもうれしかったです。  
\*現在残念ながらさいたま市図書館に該当時期の『現代短歌』（2016年12月号～17年1月号）はございません。

## 「図書館新聞なので好きな本があれば教えていた



だきたいのですが。

100年ほど前のフランスの牧師・シャルル・ヴァグネルという方が書かれた『簡素な生き方』という本は枕元に置いて度々開いています。自らに従事を持つて生きていくとという生き方に現代でも共感できることが多いと感じます。

## 「これをご覧になっている皆様に。

コロナで鬱々とした時代ですが、作品をじっくりみつめる時間をもっていただきたいです。

## 「ありがとうございました！」

大きなガラス窓が印象的な空間に置かれた作品は天気や時間によつても見え方が変わるので何度も足を運びたくなる、そんな場所です。皆様もぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

紹介した本  
『簡素な生き方』  
シャルル・ヴァグネル著／山本知子訳  
講談社／2017



紹介した本  
『探偵が早すぎる 上・下』  
井上真偽著  
講談社／2017  
紹介者：福助

# おおみや 読書バトン

第4回 テーマ  
「家族」



## 大宮図書館の バリアフリー

### 大宮図書館のバリアフリーサービスについてご紹介します。

障がいなどの事情で図書館に来られない方へ、図書館の本を送付する宅配サービスや、本が読みづらい方にかわって、ボランティアの方に本を読んでもらう対面朗読があります。どちらも登録が必要ですが図書館の利用をためらっている方がいらっしゃいましたら気軽にお声がけいただければ、お力になります。

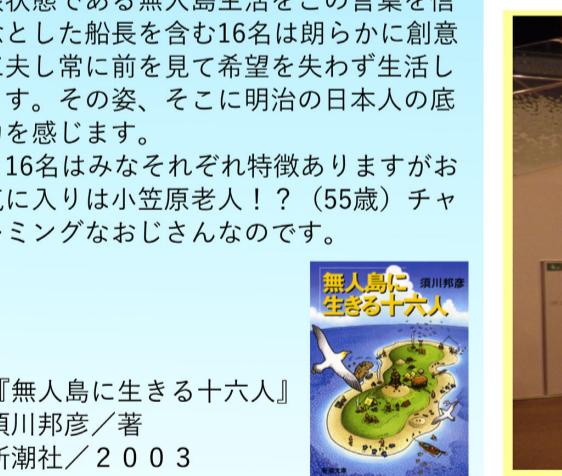
そのほかにも2020年は様々な活動を行いました。9月は世界アルツハイマー月間にあわせて認知症に関する本やパンフレットの展示を行い、多くの方が手に取ってくださいました。期間中の9月21日は世界アルツハイマーデーでの啓蒙活動で、全国34か所でオレンジライトアップがあり、その様子をプロジェクターで図書館内の壁に投影しました。

11月は県民の日にバリアフリー映画会を開催し「長いお別れ」を上映しました。9月のアルツハイマーデーと同じ主題の映画ということで認知症についての理解を深められたように思います。

そうそう、皆さん気が付きましたか？この原稿の文字は「ユニバーサルデザインフォント」という誰でも読みやすいフォントで書かれているんですよ。これからも細かいところにも目を向けて皆さんご利用しやすい図書館にしていきたいと考えています！



（9月21日はさいたまスーパーアリーナもオレンジ色に染まりました。）



『無人島に生きる十六人』

須川邦彦著

新潮社／2003

tashastagram

トショスタグラム



♡ ♣ ▽

#イベント  
#ぬいぐるみおとまり会  
#相棒 #夜の図書館  
#夜景めっちゃキレイ